

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標	「北灘を愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」 スローガン「大好き！ふるさと北灘」						
基本方針	北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。						
本年度重点目標	①地域資源・地域人材を活用した体験活動を推進するとともに、一人一人のよさを認め合う教育を推進する。 ②学習習慣の定着を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かして、楽しく分かる授業となるよう改善を行う。 ③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A		
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		
			一人1台端末やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B		
			③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B
					④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			A A A
			(成果と課題) ○ 演習や実験等を通じて、一人一人の学習量を保障することができ、理解力を高めることができた。 ○ クロームブックを使うことに関心が高く、学習が苦手な児童も意欲を持って、すららドリルなどアプリを活用している。 △ 全体的に読解力に課題があるので、語彙や知識がないと、読書に進んで取り組むのは難しいといえる。				
			(改善策等) ・ 文章の読み方や文の書き方について、繰り返し練習したり、まとめや振り返りの際に自分の考えの言語化したりする活動を積極的に取り入れていき、文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努める。 ・ 読書活動や予習・復習など、家庭における学習時間の向上の啓発を継続して行っていく。				
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	
不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A C		
いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		
③				関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A
					④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B				
(成果と課題) ○ 教職員の適切な対応により、やっではいけないことに対する一定のラインが安定している。 ○ 異年齢、特に年下への接し方に優しさが見られる。縦割り活動での上学年の役割が大きい。 △ 「明日も学校に行きたい」や「自分にはいいところがある」と思っていない児童の割合が高い。							
(改善策等) ・ 「よくがんばっているな」という評価だけではなく、それを子どもたちが実感できるように、声にしたり褒めたりすることを意識的に行っていくことで自己肯定感を高めさせていく。 ・ 道徳教育の中で、自他を尊重したり自分事としてとらえたりすることを意識させ、日々の授業の充実を図る。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革(ワーク・ライフ・バランスの向上)に努めた。	・教師アンケート	B	
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	
				・教師アンケート	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	
	(成果と課題) ○ 複式学級支援員の勤務時間が増えたことで、算数や体育などの手が必要な授業に入ることができた。 ○ 職員間の積極的な声掛け等により、互いに協力し合える関係を築くことができている。 △ 気付いたことを言い合い、拳がった声を一部の納得でなく、全職員で共通理解した上で、改善していけるとよい。 (改善策等) ・ 二学期には、大きな行事が控えているので、早期の立案と協力体制を心がけるよう支援していきたい。 ・ 勤務時間については、心身のバランスを考えられるよう働きかけていく。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ 学校行事や授業について、児童と共に振り返ることで、学校に対しての地域の方々への感謝の気持ちを持ち、児童にも意識付けをすることができた。 ○ 地域活動推進委員に大変助けてもらい、生活科や総合的な学習の時間の活動を行うことができた。 (改善策等) ・ 運営協議会への教職員の参加については、二学期の学校保健委員会で高学年児童と共に全職員を予定している。運営委員から貴重な意見や提案を挙げてもらうことで、学校に求められていることが明確になるので、可能な限り実現できるよう吟味していきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満